



koryo 陵 雲 High School

〒031-0011 青森県八戸市田向二丁目2番6号/電話 0178-44-3866/FAX 0178-43-9077

<https://kouryo-high-school.com> /Eメール kouryo@chibagakuen.ac.jp

八戸三社大祭中日の8月2日(日)、長者山新羅神社様の馬場において「徒打毬」が行われた。「徒打毬」とは、加賀美流騎馬打毬の試合の合間に行われる競技である。本校卒業生が会長を務める八戸徒打毬会のメンバーが指導し、練習を重ねた。しかし、近年のこの時期は、猛暑と雨で思うように練習時間が取れず、蒸し暑い体育館での練習となることが多かった。メンバーたちは、短時間での練習に集中し礼儀とルールを覚えていった。奉納試合直前には、神社境内に騎馬打毬に参加する方々とともに集まり参拝した。今年は日曜日ということもあり、県内外からの観光客、外国人が詰めかけ、「やーっ」の掛け声で繰り出す一投一投に温かい拍手と大きな声援を送ってくれた。また、久しぶりに参加した女子生徒、石橋さん、吉米地さんの2名が会場を大いに盛り上げてくれた。試合は、5点先取した方の勝ちとなるが、足場も悪く慣れない草履に袴といういでたちが、予想以上に生徒たちの体力を奪っていった。そんな時、観客からの「がんばれ」「あと1点」などの声に奮い立たされ、最後まで戦い切った。今年は白組の2勝で幕を閉じた。3年連続出場の青池さんは「たくさんの方の声援をもらいました。自分たちも楽しみたい、来年は、観客と一緒にもっとと会場を盛り上げてほしいです」と感想を述べた。



三社大祭中日 徒打毬

《徒打毬基本ルール》

現在、日本で騎馬(きば)打毬が行われているのは、宮内庁と山形の豊烈神社(ほうれつじんじや)、そして八戸の長者山新羅神社の3箇所。馬に乗らずに行う徒(かち)打毬は騎馬打毬のルールとだいたい同じだが、徒打毬の毬は八戸では騎馬打毬のものより少し小さいものを使用している。紅白(今回は5人ずつ)に分かれ、毬杖と呼ばれる杖で毬を奪い合い、毬門に放るチーム対抗戦。放った毬が自陣の門をノーバウンドで通れば得点となり、5点(チームの人数と同じ数)先取で勝利。自陣の門を通った毬が門下に置かれるので、毬の数で得点を把握できる。最初の点が入れば敵への妨害が可能となるため、毬の数が少なくなってきたからの毬の奪い合い、シュートも見どころとなる。

《紅組》

2年 石橋 ひな(三条中学校出身)
2年 櫛引 煌星(大館中学校出身)
2年 丹野 周杜(第二中学校出身)
1年 遠藤 憂真(白山台中学校出身)
1年 吉野 生真(白山台中学校出身)

《白組》

3年 青池 結心(下長中学校出身)
2年 小笠原 健悟(五戸中学校出身)
2年 吉米地 柚杏(北稜中学校出身)
1年 木下 嘉晃(下長中学校出身)
1年 村越 ジョン(湊中学校出身)



太鼓部三社大祭参加

7月31日(金)から8月4日(火)までの三社大祭期間中、太鼓部が淀山車組に参加し、太鼓と笛でお囃子の音色を響かせた。淀山車組は、太鼓部のコーチでもある創作太鼓「響」の大柳さんが所属する組で、部員たちは昨年に続いている参加となった。部長の上井啓人さんは「笛も太鼓も上手く叩くことができました。顧問の龍一先生とともに楽しんで参加できました。来年も参加したいです」、西野旬さんは「発熱で、後夜祭の一日しか出ることができなかったのが悔やまれます。最終日も本調子ではありませんでした。演奏をやっているうちに、元気になっていきました」と話してくれた。

《参加メンバー》

3年 上井 啓人(第二中学校出身)
3年 西野 旬(大館中学校出身)
2年 滝田 裕人(第三中学校出身)
2年 田中 公健(第二中学校出身)
2年 中村 風紗(根城中学校出身)



体験学習で演奏デビュー



8月6日(木)、中学生を対象とした体験学習が行われた。当日の全体会では、部活動を代表して太鼓部、サッカー部、軽音楽部が紹介を行った。軽音楽部の演奏には、2名の1年生が参加。ドラム担当の佐々木凛さん(第二中学校出身)、ギター担当の村田彩音さん(湊中学校出身)は、入学してから練習してきた「小さな恋の唄」を先輩らと披露した。「緊張しました」と話した彼女たちだが、演奏中は笑顔も見られ日頃の練習の成果を存分に出したようだ。その後の部活動、チャレンジ講座体験では、今年入学した生徒たちも「先輩」として中学生たちが楽しめるように声掛けをしたり、丁寧に教える姿が見られた。

おまつり広場出演

8月4日(火)おまつり広場のステージで軽音楽部が発表。気温30度を超える中、暑さに負けないパフォーマンスを見せてくれた。女子だけで編成された2年生は、ステージに上がると皆楽しそうに演奏していた姿が印象的だった。場数を踏んでいる3年生は先輩らしく、いつも通りの安定した演奏を見せてくれた。

《参加メンバー》

【曲目】「新宝島」(サカナクション)

Vo. 2年 佐々木 清良(長者中学校出身)
Gt. 2年 木村 未悠(北陵中学校出身)
Ba. 2年 本田 優愛(五戸町立五戸中学校出身)
Dr. 2年 村木 穂乃(東中学校出身)
Key 2年 向井 彩音(根城中学校出身)



《参加メンバー》

【曲目】「リカ」(SIX LOUNGE)

Vo. Gt. 3年 村田 翼(湊中学校出身)
Ba. 3年 貝吹 真広(明治中学校出身)
Dr. 3年 中村 倅萌(東中学校出身)

体育祭

8月27日(金)、一学期から延期になっていた体育祭を行った。前日の準備では、グラウンド整備とテント設営などを行っていたが、雷雨に見舞われ途中で体育館に避難。当日は晴天となったが、雨の影響でグラウンドコンディションは不良、競技を絞って体育館での実施に切り替えた。水たまりのグラウンドを見て、中止を考えていた生徒たちは、どんな形でも実施できたことに大喜び。保護者の観覧はなくなったが、飲み物の差し入れに感謝しながら、体育祭を楽しんだ。優勝は二年二組、準優勝は一年一組となった。



教育実習生紹介



卒業生の伊藤みんとさん(令和4年度卒・白山台中学校出身)が、8月31日(月)から9月18日(金)までの3週間の日程で教育実習を行う。

《名前》 伊藤 みんと(尚絅学院大学4年・人文社会学群・人文社会学類)

《趣味》 料理、芸術鑑賞、読書(9割は漫画)

《高校生の頃、頑張ったこと》 部活動(軽音楽部でギター担当)と生徒会活動に励んでいました。軽音楽部では、深澤先生に大変お世話になりました。文化祭や3年生を送る会などの行事に向けてメンバーと活動してきました。生徒会では、成田先生のご指導のもと、楽しく、時には苦しく、最大の行事文化祭に向けて活動していました。さらに、ボランティア活動にも参加し、高校時代は「挑戦」することに力を入れていました。

《高校時代に学んだことで、今役立っていること》 チャレンジ講座をきっかけに、大学では不登校の子どものために、学びの機会を取り入れた家庭教師をしたいと思い仕事を始めました。向陵高校のチャレンジ講座のおかげで「まずはやってみる」と「好きを見つけること」の大切さを学びました。

《向陵生へ一言》 初めまして、宮城県・尚絅学院大学から参りました伊藤みんとと申します。小・中学校は白山台でバスケットボールをしていました。高校では軽音楽部でした。初日、皆さんとお話することになり緊張してしまい、積極的に声を掛けられることができませんでした。しかし、皆さんが優しく接してくださって楽しい時間を過ごしています。たくさんお話をしたいと思っていますので、私が声を掛けたら返してくださいと嬉しいです。三週間、よろしく願っています。

花火大会ボランティア

2年 石田 光(根城中学校出身)

今回のボランティア活動では、フェンスとバリケードの設置をしました。多くの人が安全に花火を楽しめるように準備することの大切さを学びました。作業を楽しみながら行うことができ、いい経験になりました。皆さんが喜んでくれると嬉しいです。

2年 菊地 星風(階上町立階上中学校出身)

今回の活動内容は、フェンスの設置とバリケードの運搬でした。海の近くでの活動は、潮風が心地よく、快く活動に臨むことができました。飲み物の配布があったり、終盤にはソフトクリームも配られたりしたので、その分たくさん汗をかいて一生懸命動きました。



SC講話

8月31日(月)、1、2年生を対象にスクールカウンセラー石岡れい子先生による「社会に出る際のルール・マナー」について講話を行った。石岡先生は、対人関係・人間関係について「言葉のいじめ」や「男女関係」、「貸し借りや支払い」の例を挙げ、生徒と先生の間で話し合いが行われた。



検定合格

◎日本漢字能力検定

《準2級》川村 章博(3年・湊中学校出身)

卒業生の伊藤みんとさん(令和4年度卒・白山台中学校出身)が、8月31日(月)から9月18日(金)までの3週間の日程で教育実習を行う。

《名前》 伊藤 みんと(尚絅学院大学4年・人文社会学群・人文社会学類)

《趣味》 料理、芸術鑑賞、読書(9割は漫画)

《高校生の頃、頑張ったこと》 部活動(軽音楽部でギター担当)と生徒会活動に励んでいました。軽音楽部では、深澤先生に大変お世話になりました。文化祭や3年生を送る会などの行事に向けてメンバーと活動してきました。生徒会では、成田先生のご指導のもと、楽しく、時には苦しく、最大の行事文化祭に向けて活動していました。さらに、ボランティア活動にも参加し、高校時代は「挑戦」することに力を入れていました。

《高校時代に学んだことで、今役立っていること》 チャレンジ講座をきっかけに、大学では不登校の子どものために、学びの機会を取り入れた家庭教師をしたいと思い仕事を始めました。向陵高校のチャレンジ講座のおかげで「まずはやってみる」と「好きを見つけること」の大切さを学びました。

《向陵生へ一言》 初めまして、宮城県・尚絅学院大学から参りました伊藤みんとと申します。小・中学校は白山台でバスケットボールをしていました。高校では軽音楽部でした。初日、皆さんとお話することになり緊張してしまい、積極的に声を掛けられることができませんでした。しかし、皆さんが優しく接してくださって楽しい時間を過ごしています。たくさんお話をしたいと思っていますので、私が声を掛けたら返してくださいと嬉しいです。三週間、よろしく願っています。